農業後継者育成基金事業

平施28年度農業後継者特別支援事業

事業主体名　鹿児島県立農業大学校畜産学部肉用牛科

１　目的

近年，黒毛和牛の放牧が，耕作放棄地の解消・美しい里山景観の維持，家畜飼養管理のコスト及び労働力の低減対策として見直されている。そこで，将来畜産後継者となり地域を担う農大学生が簡易な黒毛和牛の放牧方法の実証を行い，将来の肉用牛経営に生かすことを目的とした。.

２　放牧試験実施状況

非妊娠牛２頭を 21 日間放牧し，(1)草種及び採食量　(2)栄養度の変化　(3)血液性状　(4)労働力及びコストを調査した。

【結果】(ｱ)草種割合及び収量：

放牧１区における放牧前後の草種割合は，イタリアンライグラスが 66.4 %，セイタ　カアワダチソウが 18.7 %を占めた。９日間放牧した後の採食率は 63.3 %であり，採食　量は 738kg と推定された。放牧２区における放牧前後の草種割合は，イタリアンライグ　ラスが 46.0 %，シロクローバーが 35.9 %を占めた。12 日間放牧した後の採食率は 85.8 %であり，採食量は 1,574kg と推定された。草種及び採食率調査より，草種は 21 種類に及び，牛の嗜好性としてほとんどの草種を採食することが判明した。

写真１　耕作放棄地への放牧

写真２　収量調査の様子

(ｲ)体重及び栄養度変化：放牧前後において２頭は，それぞれ体重 553kg から 536kg，栄養度は 5.5 から 5.0，体重 549kg から 529kg，栄養度は 6.0 から 5.5 へ変化した。

(ｳ)血液性状：総タンパク（g ／ dl）は２頭とも標準で問題なし。総コレステロール（mg ／ dl）は２頭ともカロリーベースで低下した。放牧による運動量の増加が原因と推察された。ビタミンＡ及びＥは２頭とも問題なし。

(ｴ)労働力及びコスト：簡易放牧に要したイニシャルコストは合計 81,640 円であった。畜舎飼いと放牧（草地及び耕作放棄地）の比較すると，労働時間およびコストにおいて 60 ～ 65 %減が達成可能である。

３　レンタカウ事例調査（山口県）

現在 30 戸が約 250 頭の牛を貸し出している。貸出料は１頭当たり無償～ 15,000 円であった。借り手は，電気牧柵の準備と水飲み場の確保が条件である。調査より，牛の放牧は，①耕作放棄地の解消，②繁殖牛管理の省力化，③規模拡大への有効活用，④農村における安らぎや生きがいの創出等に貢献していることが理解できた。

一連の取り組みを通じて，放牧が可能な土地あるいは耕作放棄地があれば，低コストで省力的に牛が管理できることが理解できた。

写真 3　レンタカウ事例調査

反省点は，現場では採食量や嗜好性は教科書通りに行かないことも想定し，対処法まで考慮しながら取り組む必要があると実感した。